

便潜血検査について

早期の大腸がんは、一般的に自覚症状が少なく。血便・下血、便秘・下痢、腹痛、腹部膨満などの症状が、出現するのはかなり進行してからです。

「便潜血検査」は、簡単な検査で大腸がんの精密検査が、必要な人を拾いあげる負担の少ない検査法です。

大腸がんであっても便潜血検査が「陰性」となってしまう疑陰性がありますが、毎年検査を受けることによって疑陰性の確率は少なくなり「毎年、便潜血検査を行っているグループからは4年目以降、進行がんは発見されない」という報告もあります。

ただし、便潜血検査の「陽性」＝「がん」と考えて心配をする必要はありません。肛門周囲には毛細血管が多く、便に微量の血液混入や痔からの出血で陽性となることもあります。

結果が「陽性」の時は、大腸内視鏡検査や大腸透視等の検査を受けて確認しましょう。

それでは、**便潜血検査「陽性」の場合、どの位の頻度で病気が見つかるのでしょうか？**症状がなく、便潜血検査「陽性」であった1,004名に対して、大腸内視鏡検査を実施した報告（日本消化器内視鏡学会雑誌：2004年）では、

大腸がん	； 81例	8.1%	（早期がん39例・進行がん42例）
腺腫（ポリープ）	； 345例	34.4%	
腸炎	； 58例	5.8%	
その他	； 101例	10.1%	
異常なし	； 419例	41.7%	

この報告から便潜血検査「陽性」の100人の内8人の方に大腸がんが発見されています。**苦痛のない便潜血検査の簡便さを考えると、大腸がんの可能性を拾い出す検査としては、とても有用と言えます。**

大腸がんの発生部位は、直腸とS状結腸で大腸がん全体の約70%をしめています。

直腸の長さは、大腸全体の約10%ですが、全大腸がんの約50%が発生するほど、がんがしやすい場所です。

2番目に多いのは、便が長く貯留しているS状結腸です。

**健康友の会では、
「捨てるウンチで拾う命」運動
を進めています。**

〈結腸の区分〉

